



©Yuki Asada

幸せを運ぶピースコーヒー

東ティモールの最高峰、標高2,986メートルのラメラウ山。この山の中腹にあるレテフォホでは、人々の幸せにつながる「ピースコーヒー」が栽培されている。

東ティモールはインドネシアとの独立紛争を経て2002年に独立を果たした。コーヒーは数少ない換金作物であり、多くの人がコーヒーを育てて生計を立てている。ところが、買い取り業者がコーヒー豆を安く買ったたので、生産者は厳しい暮らしを強いられていた。

独立前の混乱期から同国で支援活動をしている特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン (PWJ) は、持続的な発展のためには人々が自分たちの力で何かを生み出す仕組みが必要だと考え、03年にフェアトレードコーヒー生産者支援事

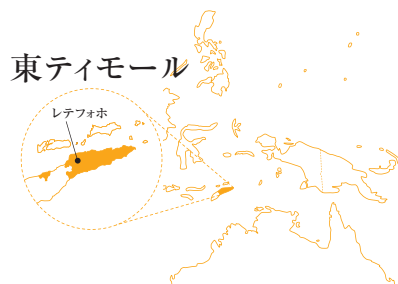
業を開始した。PWJが求める、手間のかかる加工作業に不安を抱く生産者もいたが、当初10世帯だった事業への参加者は、今では約500世帯に膨らんだ。化学肥料も農薬も使わないピースコーヒーは、「スペシャルティコーヒー」としてコーヒー鑑定士から高く評価されている。

PWJフェアトレード部の大石雅美さんは、「私たちが目指すのは、高品質のコーヒー作りの先にある、生産者の暮らしの向上と、そこにつながる消費者の意識や行動の変化です」と話す。生産者からは、「収入が増えたので、継続して子どもを学校に送ることができる」「私たちの作るコーヒーが、遠い日本でおいしいと評判になっていると聞いてうれしい」という、希望にあふれる声が届いている。



収穫したコーヒーの実を手にする生産者家族たち

- ★東ティモールのピースコーヒーを2人にプレゼント!
→詳細は38ページへ
- ★商品は「ピースウィンズ・ジャパン」オンラインショップで購入できます <http://pwshop.ocnk.net/>



東ティモール

レテフォホ